学校番号	1206

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	（学）基礎からの社会	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書							
副教材等	自校作成プリント						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

エンパワメントスクールの共通科目として、小学校３年程度から中学校３年までの社会（地理分野・歴史分野・公民分野）についての身近な事例を教材として提示し、ICT の活用やグループ活動などの展開によって興味を高めたり内容を確認したりし、高校の各教科への円滑な引継ぎを図ります。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
知識・技能：社会に関するニュースや記事に興味が持てるようになるような基礎知識を得る。
　次年度以降に履修する「公共」「歴史総合」「地理総合」を学ぶ上での基礎知識を得る。
【思考力、判断力、表現力等】
思考・判断・表現：小中学校レベルの社会科の内容を理解し、それを自分の言葉で表現できる。
【学びに向かう力、人間性等】
学びに向かう主体性：自分の考えを積極的にアウトプットし、他者と共有する力をつける。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	○社会の様々な事象や現代的諸課題の分析・考察に必要とされる基礎的知識（用語･地名など）や基本的概念（歴史、環境、地域）を身に付けている。 ○学習に必要とされる様々な資料を収集し、それらを的確に取捨選択し、調査･分析することができる。	○社会の様々な事象を分析・考察・解釈し、学習の中で得た気付きや社会の規則性をもとに、現代世界が抱える諸課題の現状を発見することができる。 ○現代的諸課題について、その背景・要因・解決策を多方面から追究し、環境・人権・平和の観点からより良い社会のあり方を模索することができる。	○社会（地理分野･歴史分野･公民分野）に興味・関心を抱き、それらを自分自身の生活の身近な事例に位置づけ、結びつける態度を養う。 ○社会分野を学ぶことの意義を積極的に見出し、そこで得た知識・技能・態度を社会生活の中にある現代的諸課題の解決に生かす態度を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
4月～7月	日本地理	・身近な地域の地理 ・47 都道府県の位置 ・日本の主な山地・河川等の地形	a: 身近な地域から日本の都道府県、アジア・南北アメリカなど主要な国について理解できる。 b: 世界の主な国の位置が分かる。様々な地域の暮らしを知り、積極的に情報収集することができる。 c: 地理的な興味関心を持って、積極的にグループ活動などに取り組もうとしている。	定期考査 授業 プリント	定期考査 授業 プリント	授業 プリント
	世界地理	・アジア・南北アメリカなど主要な国を知る ・世界の主な国の位置関係				
8月～12月	日本の歴史	・古代・中世・近世・近現代といった時代区分 ・各時代の特徴的な人物、文化財等について	a:各時代の特徴的な人物、文化財等について理解し、我が国の歴史区分や歴史上の偉人について理解できる。 b:日本の歴史の大きな流れがわかり、人物を通して歴史をストーリーとして楽しむことができる。 c:歴史上の人物を通じて社会の変化に興味を持ち、グループ活動などに積極的に取り組もうとしている。	定期考査 授業 プリント	定期考査 授業 プリント	授業 プリント
	世界の歴史	・我が国との関係と世界のおおまかな歴史				
1月～3月	政治分野	・法的な物の見方、考え方 ・裁判員裁判について理解することができる。	a: 裁判員制度や経済活動などの理解を通して、政治的経済的教養を身につける。 b: 政治制度や株式会社及び金融の働きについて理解して、社会活動について考えることができる。 c:将来の自立した生活に関心を持ち、経済的な教養を身につけようとしている。	定期考査 授業 プリント	定期考査 授業 プリント	授業 プリント
	経済分野	・身近な消費生活 ・家計・企業活動・財政活動の相互関係 ・株式会社や金融の働き				

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度